



6年生修学旅行 part2

6年生の修学旅行の二日目は、午前中に無窮洞（むきゅうどう）という防空壕の見学に行きました。無窮洞は、第二次世界大戦中、当時の宮村国民学校の教師と小学生たちが掘った巨大な防空壕のことです。中は幅約5m、奥行き約20mで、生徒5500人が避難できたというほどの大きさだそうです。避難中でも授業や生活ができるように、設けてありました。当時4年生以上の子供たちがツルハシで掘り進み、女子生徒がノミで仕上げたといわれています。見学を終えた6年生の子供たちは「ツルハシとノミだけで掘ってあるのに、とてもきれいで、しかもとても広くて驚きました。」「あの中でみんなが勉強していたと考えると、今とは違うし、見学したことで戦争の辛さや怖さがわかってよかった。」と感想を述べていました。



無窮洞



ハウステンボス

その後、6年生が一番楽しみにしていたハウステンボスに行き、様々なアトラクションを体験し、楽しんでいました。子供たちは、「ハウステンボスはいろいろなアトラクションがあって、自由な場所だった。」「お金の使い方についてしっかり感がありました。家族へのお土産の分や、自分の欲しい物など考えて使うことができました。」と述べ、自由行動を満喫することができ、二日間の修学旅行を終えました。

ムラサキ朝会考えた「平和」

今日1日(木)は、ムラサキ朝会でした。6年生の修学旅行のスライドを見せて、平和学習に取り組んだことを紹介しました。そして、これは私の私見なのですが、「戦争の反対の言葉って『秩序』」だという話をしました。例えば戦争が起こり、その戦争が終戦を迎えると、そこには、「秩序」が最も必要になってきます。秩序を平たく言えば「望ましい状態を保つための順序や『きまり』」で、それが保たれたその先に「平和」が待っていると思うからです。学校生活を見渡してみても、子供たちがよりよい生活を過ごすための様々な「きまり」があります。そのきまりを守って、一人一人が描く「平和」が待っているのです。今月の生活目標は「学校生活のきまりを守ろう」です。子供たちには平和な学校を築いて、みんなが「わくわく」する学校にしていこうと伝え、6年生には、修学旅行の経験を生かして、「平和」な学校にするために自分にできることを考えようとお願ひしました。

